第３章

～民間事業者による各分野の取組事例～

次頁以降に掲載している事例は、令和２年２月現在において、
「民間事業者による取組事例」として、市ホームページで掲載している内容です。

1　子育て分野

新潟市内 JA 農産物直売所等における子ども食堂への食材提供

※JA 新潟中央会、ＪＡ新潟市、ＪＡ新潟みらい、新潟市社会福祉協議会、NPO 法人フードバンクにいがたの取り組み

田園資源 × 子育て × 福祉

取組概要

【取組実施期間：平成 30 年５月から】

- ◆ 子ども食堂で使用する食材について、JA 直売所や生産者に呼びかけ、規格外の農産物などを提供。地元の農産物を使った食事の安定的供給を実現。
- ◆ 平成 30 年度は、西区、中央区の子ども食堂の１か所ずつ、計２か所で実施。

取組効果

- ◆ 子ども食堂の安定的な運営を後押しするとともに、消費者（都市部）と生産地が近接した本市の特性を活かし、農村と都市の交流や地産地消にも寄与することができました。

2　教育分野

黒埼地区農業体験学習 ～ 元気な農業・繋げる文化 ～

※JA 越後中央青壮年連盟黒埼支部の取り組み

田園資源 × 教育 × 子育て × 交流

取組概要

【取組実施期間：平成 29 年 10 月から】

- ◆ JA 越後中央青壮年連盟黒埼支部が、くろとりこども園の園児、黒埼地区小学校 4 校、附属新潟小学校の児童を対象に、米づくり体験、くろさき茶豆栽培体験を実施。

取組効果

- ◆ 農業をより身近に感じてもらうため、地域の農業者が中心となり、多くの子供に対し農業体験の場を提供することができました。

３　福祉分野

新潟市産大豆を使った加工品開発

※農事組合法人 カメヨコ、あどばんす、クローバー歩みの家の取り組み

田園資源 × 福祉

取組概要

【取組実施期間：平成 27 年 12 月から】

◆ 二つの福祉事業所が、農業者が生産した大豆を加工し、中東諸国の郷土料理「フムス」や大豆粉を使用したドーナツ、クッキー、納豆などの商品販売を実施。

取組効果

◆ 農業者と福祉事業所が、お互い利益の出る Win-Win の関係を目指して協議、工夫することで、事業継続できる付加価値の高い商品が開発できました。

◆ 大豆販売以外の収益源確保による農業経営の安定化が図られています。さらに、商品を安心・安全で高品質（高価格）にすることで収益性の向上が見込まれます。

◆ 農福連携により商品化された「カメヨコなっとう」は大手デパートの「越品」に取り上げられました。

園芸福祉農園に向けた取り組み

※株式会社　曽我農園、就労センタードリームネクスト、デイアクティビティセンターはろはろの取り組み

田園資源 × 福祉

取組概要

【取組実施期間：平成 27 年４月から】

◆ 農園と障がい者福祉施設が連携し、障がい者の就労訓練としてトマトの選果や包装、ラベル貼り等の作業を実施。

◆ 農園が、「トマトラーメン」等、福祉施設の商品づくりに協力。

◆ 過去には、農園担当者が福祉施設の圃場にて栽培指導も実施。

取組効果

◆ ㈱曽我農園担当者が福祉事業所の農園にて、小松菜の水耕栽培指導を 1 年間実施。現在は、専属の障がい者数名による作業が行われており、最大約 200kg／月の収穫があります。そこで収穫された小松菜は就労支援施設であるラーメン店の具材として提供されています。

◆ 就労支援施設であるラーメン店で提供しているメニュー中に、農福連携で開発したものも提供されています。

障がい者の自主性を尊重し「みんな」で取り組む農福連携の実現

※農園 CuRA! 、福祉事業所いしやま、ファースト、せかんどの取り組み

田園資源 × 福祉

取組概要

【取組実施期間：平成 29 年５月から】

◆ 障がい者全員が一連の作業に携われるよう工夫しながら、農園内の圃場にて、薬用植物等の栽培から、ハーブティーやジャムなどへの加工・販売まで実施。

◆ 福祉事業所が生産した農産物の加工指導やメニュー開発にも協力。

取組効果

◆ 障がい者が全ての作業に関わることで、目に見える成果が更なるやる気に繋がり、自主性も生まれ、好循環を生み出しています。

◆ 障がい者が楽しんで作業をする様子が近所に住む方に伝わり興味を持ってくれる等、新しい交流の輪が広がり、地域活性化にも繋がっています。

江南区地域の茶の間「お～うん」への農産物提供

※JA 新潟みらい亀田支店・横越支店、江南区地域の茶の間「お~うん」の取り組み

田園資源 × 福祉 × 交流

取組概要

【取組実施期間：平成 29 年 10 月から】

◆ JA 直売所などから引き上げられたり、規格等に合わず出荷に適さない等、通常は廃棄処分されてしまう農産物を、JA 新潟みらいが地域の茶の間「お～うん」へ無償提供し、昼食の食材として有効活用。

取組効果

◆ 通常廃棄処分されてしまう農産物を、福祉事業で有効に活用していただくことで、食品ロスの軽減へも寄与しています。

◆ お～うん参加者が、提供いただいた農産物を調理し、野菜中心のヘルシーな食事をとることで、参加者自身の健康増進や介護予防に繋げており、さらに、地域交流も図ることができました。

地域共生型あぐり事業

※marugo-to（まるごーと）、西蒲区社会福祉協議会の取り組み

田園資源 × 福祉 × 交流

取組概要

【取組実施期間：平成 30 年６月から】

- ◆ 地域にある使わなくなった農業用ビニールハウスや畑を活動拠点として、認知症の方、高齢者をはじめ、障がいのある人、ひきこもりの人などが、やりがいや、生きがいを持って活躍できる場所を提供。
- ◆ 男性シニアボランティアや参加者の方々と一緒に農作業や創作活動、様々なイベントを実施。

取組効果

- ◆ 男性シニアボランティアや参加者の方々が、農作業や創作活動を自由に、かつ、自主的に行うことで、生きがいやメリハリのある生活を送ることができています。
- ◆ 農作業に従事することで、地域の農業の活性化の一助となっています。
- ◆ 様々なイベントを企画し、地域の世代間交流の場を提供できました。

４　保健・医療分野

Akiha もち麦プロジェクト

※社会福祉法人 親和福祉会（Akiha もち麦プロジェクトメンバー）の取り組み

田園資源 × 保健・医療 × 子育て × 福祉

取組概要

【取組実施期間：平成 27 年 10 月から】

- ◆ 障がい者の雇用促進に取り組むため、近年機能性成分に注目が集まる大麦（もち麦）を、同法人が運営する複数の福祉事業所で栽培から加工・販売まで実施。
- ◆ 関係団体と連携し、大麦（もち麦）の６次産業化、地産地消を実現。

取組効果

- ◆ プロジェクトに参加する農家との農福連携がはじまり、農作業を通して障がい者の社会参加に繋がっています。
- ◆ 取り組みをきっかけにプロジェクトの輪が広がり、現在では近隣農業者と連携して、農作業や加工体験による保育園・こども園等での情操教育の一助を担っています。
- ◆ 健康に良いとされる機能性成分「大麦β-グルカン」を含んだ自社商品が『新潟市健幸づくり応援食品』に認定されました。

南区健康大麦プロジェクト

※特定非営利活動法人　ゆうーわ（南区健康大麦プロジェクトメンバー）の取り組み

田園資源 × 保健・医療 × 福祉

取組概要

【取組実施期間：平成 28 年６月から】

- ◆ 近年その機能性成分に注目が集まる大麦を買い上げ、障がいのある方と一緒に、精麦したり、製粉しシフォンケーキやパンなどに加工・販売。
- ◆ 南区内の農業者等からの大麦の精麦依頼に対応。

取組効果

- ◆ 障がい者の雇用機会創出と工賃増加が図られました。
- ◆ 同法人が事業を開始するまでは、南区では大麦の精麦をトン単位で行う業者しかいなかったが、同法人が精麦・製粉を請け負うことで、少量でも対応できるようになり、南区内の大麦栽培拡大に寄与できました。
- ◆ 健康に良いとされる機能性成分「大麦β-グルカン」を含んだ自社商品が『新潟市健幸づくり応援食品』に認定されました。

５　エネルギー・環境分野

循環型社会と持続可能な農業の構築に向けて食品廃棄物と未利用資源リサイクルの取り組み

※株式会社　不二産業、株式会社　新潟不二 A.B.の取り組み

田園資源 × エネルギー・環境

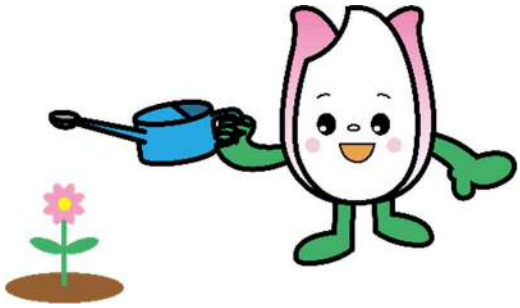
取組概要

【取組実施期間：平成 27 年４月から】

- ◆ 草葉堆肥や食品リサイクルを原料とした有機堆肥を使用して、耕作放棄地を優良農地へ復元する取り組みを実施。
- ◆ 生産された野菜は、地元小学生の体験収穫や、市内のスーパーにて販売しているほか、ホテルや飲食業での食材や食品製造業での原材料として利用され、食品ループを形成。

取組効果

- ◆ 株式会社新潟不二 A.B.において、西区や西蒲区の利用権設定した耕作放棄地（平成 30 年 12 月現在、約 16ha）を、草葉堆肥や食品リサイクルを原料とした有機堆肥を用いて優良農地へ復元しました。
- ◆ 草葉や食品などをリサイクルさせることで廃棄物の焼却処分量の減量に貢献できました。



６　交流分野

鳥屋野潟の五方良し・がってん（潟再生・発展）事業
※NPO 法人 新潟水辺の会の取り組み

田園資源 × 交流 × 教育 × エネルギー・環境

取組概要

【取組実施期間：平成 30 年 1 月から】

◆ 鳥屋野潟の環境改善と利用拡大に向け、湖畔で空真菜の栽培や茶などの加工販売、マコモやシジミの定着試験、間伐竹を活用したいかだ作り等の多様な取り組みを、地元の漁業者有志、コミュニティ協議会、元シェフ、潟研究者、地元の小中学校や専門学校などと連携して実施し、鳥屋野潟の持続的な活用を促進。

取組効果

◆ 鳥屋野潟の環境改善活動から、着地型体験サービスの提供によるソーシャルエコビジネスを展開し、地元学生の環境教育にも貢献できました。

鳥屋野潟を活用した豊かな水辺空間の創造と魅力発信
※株式会社 U・STYLE の取り組み

田園資源 × 交流

取組概要

【取組実施期間：平成 27 年 4 月から】

◆ 「潟マルシェ」、「とやの潟ウインターキッチン」、「とやの潟アウトドアピクニック」など、鳥屋野潟を拠点に、その土地ならではの人やモノの魅力を食や体験を通して発信する取り組みを実施。

取組効果

◆ 鳥屋野潟周辺の交流人口創出や、「潟」のイメージアップに貢献しました。

◆ 鳥屋野潟の魚を食すこと、鳥屋野潟水系の自然栽培の農家と連携したマルシェや、それら作物を用いたメニュー開発、鳥屋野潟と「ユスリカの森」でマルシェやアウトドアピクニックを開催し、田園資源である潟を活用した新たなコミュニケーションの場を創出しました。

「新潟しゅぽっぽ」による地域ブランド向上と観光流動創造
※地域連携プロジェクト代表者：㈱JR 新潟ファームの取り組み
田園資源 × 交流

取組概要

【取組実施期間：平成 30 年 1 月から】

◆ JR 東日本のオリジナル日本酒ブランド「新潟しゅぽっぽ」を通じて、日本酒文化・食文化の振興に寄与する活動を実施。

【1】酒米生産から消費までの一気通貫した酒づくりの取り組み（６次産業化）。

【2】新潟の魅力を発信する各種イベントの実施（12 次産業化:田園資源×交流）。

取組効果

◆ 販売者、消費者を巻き込んで「地域連携プロジェクト」を立ち上げ、酒米生産から消費までの一貫体系で取り組んだことで、単なる酒米生産・日本酒製造に留まらず、新潟日本酒文化の発信、地域ブランドの向上や新潟日本酒の需要拡大、ツーリズムの創出に繋げることができました。